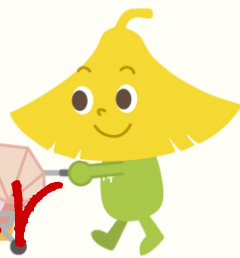


母性看護学研究会 News Letter



Vol.01

2017年3月号

平成28年度 母性看護学領域

中村幸代(教授) 宮内清子(准教授) 佐藤いずみ(助教) 竹内翔子(助教)

平成28年度卒業研究発表会を開催

平成28年12月14日(火)、卒業研究発表会が開催されました。母性ゼミの学生10名も自己のテーマに沿った助産院での統合実習を経て、その成果を発表しました。



❀今年度の母性ゼミ生テーマ❀

- ・マタニティヨガと出産に対する自己効力感の関係性の分析
- ・助産院勤務の助産師における災害初動期の妊産婦への精神的ケアの検討
- ・助産院でのフリースタイル分娩において産婦が求める助産師のかかわり
- ・助産院での満足のいく出産をするための助産師のかかわり
- ・助産院で出産した女性の産痛に対する捉え方の変容
- ・助産院助産師における早期母子接触の認識
- ・母乳育児を伴う否定的な感情を持つ母親に対する助産師のかかわり
- ・日本で望まれる褥婦への継続的な心理支援の実施者とは
- ・立会い分娩を行う夫に対する助産師の継続的な関わりについて
～夫婦がより満足のいくお産を目指して～
- ・助産院でのお産を通して変化する夫の家庭参加への意識

平成29年度母性ゼミ Start

平成29年度の母性ゼミ生9名が決定し、1月末からまた新たに母性ゼミが始まりました。次年度はこれまでの助産院3施設に加え、フィリピン共和国もフィールドにする予定です。

教員の研究活動①

本年度より、母性看護演習で Team Based Learning (TBL) というアクティブラーニングを一部導入し、履修した学生を対象に、TBLを受講した満足度に関するアンケート調査を行いました。

本研究の成果は、第36回日本看護科学学会学術集会(平成28年12月10日開催)で発表しました。



母性ゼミ卒業生より

清水 麻衣さん
(平成27年度卒)

母性ゼミの先生方は、どんな時も親身になって相談に乗ってくださいました。また助産学校への進学後、同じゼミ生からの応援は、自身が頑張る原動力にもなっていました。私にとっての母性ゼミは、このような素敵な人たちと出会えた場所であり、卒業後も尚、心の支えとなっている場所です。

相馬 もものさん
(平成27年度卒)

私は今、横浜市立大学附属病院の神経内科と救急病床の混合病棟で働いています。大変なこともたくさんありますが、優しい先輩方と同期に支えられて、毎日充実した日々を過ごしています。勉強の日々で、よい看護ができるように努力しています。

教員の研究活動②

平成28年8月、フィリピン共和国イロイロ市において、フィリピン人妊婦を対象にしたインタビュー調査を行いました。研究のテーマは、「フィリピン人妊婦の冷え症の認識と日常生活行動の特徴」です。

15名近くの妊婦さんが研究協力に快く手を挙げてくださいました。インタビューを進めている内に気づいたら研究協力が者か帰ってしまったというハプニングもありましたが・・・英語や現地のタガログ語が飛び交い、国際色豊かなデータ収集でした。

研究の成果は、第30回神奈川母性衛生学会学術集会(平成29年2月4日開催)で発表しました。



❀ 本学大学院へ進学をお考えの方は、いつでもお気軽にご相談ください。

【お願い】

登録メールアドレス変更の方は下記までご連絡ください。
連絡先: 竹内翔子 (shoko@yokohama-cu.ac.jp)

